

英米文化学会会報

第 40 号

平成 11 年 8 月 12 日版



第 100 回例会記念懇親会風景（写真では見えないが山のように料理がありました）

目次

英米文化学会第 17 回大会のお知らせ（発表要旨）
『英米文化』投稿希望者へのご案内
事務局からのお知らせ

英米文化学会第 17 回大会のお知らせ

標記の大会が下記要領にて開催されます。

開催年月日：平成 11 年 9 月 11 日（土）

時 間：研究発表 9:40-15:20(9:00 受付開始)

開催場所：拓殖大学文京校舎（地下鉄丸の内線茗荷谷駅徒歩 5 分）

講 演

「国際化時代に向けての英語指導上の課題」
羽鳥博愛先生（東京学芸大学名誉教授・文京女子短期大学副学長）

大会参加費 一般 500 円 学生 300 円
昼食 800 円（当日申込受付） 懇親会費 5,000 円（当日申込受付）

研究発表

1. 境界としての己

--- グロリア・アンサルドゥーアのBorderland/La Fronteraを通して

吉原 令子(昭和女子大学)

司会 倉崎 祥子(昭和女子大学)

2. マーク・トゥェイン晩年の帝国主義批判における宗教性

佐野 潤一郎(創価大学)

司会 上野 和子(昭和女子大学)

3. 言語コミュニケーション活動における文化的背景の介在

-- ユダヤ系米国人と中国系米国人との比較研究を中心に

井上 愛子(昭和女子大学)

小池 知之(拓殖大学)

司会 鳥飼慎一郎(立教大学)

4. 鎖国時代における日本人の海外知識

-- オーストラリアの場合

森本 峰子(日本女子大学)

司会 高野 彰(東京大学文学部図書館)

5. 日本人学習者における知覚現象(前景と背景)の英語的発想は確か

亀山 孝(共愛学園高等学校)

司会 平川 敦子(城西大学)

6. 日本における「外来語」観の変遷

-- 接触言語学の視点からの考察

鈴木 俊二(国際短期大学)

司会 小川 喜正(昭和女子大学)

第17回大会発表レジュメ

1. 境界としての己-- グロリア・アンサルドゥーアのBorderland/La Fronteraを通して--

吉原 令子(昭和女子大学)

白人中流階級中心のフェミニズムを非難した最初のチカナ・フェミニスト詩人であるグロリア・アンサルドゥーアは、抑圧する側の文化と抑圧される側の文化を同時に内在化するアイデンティティを表現し続けている。第一世界/第三世界、男性性/女性性、異性愛/同性愛、中心/周縁、主者/他者といった、いくつもの対立領域を行き来し、自らの多様性、流動性、異質性を「境界」の場で表現することによって自らが受ける抑圧ばかりか、自らが加担する抑圧をも説いている。しかし、家父長制や白人至上主義などの覇権主義に対しては一貫して異義を唱え、「第三世界女性」としてのアイデンティティ意識を堅持している。本発表ではアンサルドゥーアの著書Borderland/La Fronteraを中心にポジショニング(位置の政治学)について、そして、ボーダーランドで生きることについて考える。

2. マーク・トゥェイン晩年の帝国主義批判における宗教性

佐野 潤一郎(創価大学)

マーク・トゥェインは晩年の1901年から死に至る1908年の間、反帝国主義者同盟(Anti-Imperialist League)のVice Presidentの一人として、米国によるフィリピンの植民地統治に警鐘を鳴らした。To the Person Sitting in Darknessに代表されるこの時期のマーク・トゥェインの作品は諷刺に満ちたものであり、他の時期の作品同様、諷刺の手段として宗教を引き合いに出した表現が散見される。初期の聖地巡礼記であるThe Innocents Abroad以来、マーク・トゥェインの作品に現れる宗教への鋭い諷刺は、無批判な盲従を批判し権威主義を告発するヒューマニズムの発露であった。本発表では、晩年のこの時期にマーク・トゥェインの宗教観がどのような政治性を帯びていったかを考察する。

3. 言語コミュニケーション活動にみられる文化的背景の介在

- ユダヤ系米国人と中国系米国人との比較研究を中心に

井上 愛子 (昭和女子大学)

小池 知之 (拓殖大学)

言語コミュニケーション活動を考察する場合に“文化的背景から捉えた言語活動”という観点からの分析が必要不可欠となる。この種の分析的検証の必要性については、特にSapir - Whorf Hypothesis(1949)などに代表とされるように多数の社会言語学者によって提唱されている。またHymes(1974)は人間のコミュニケーション能力とは文法的に正しい文を創造するために要求される言語学的能力のみを指すのではなく、その人間が属する社会の文化的背景に応じたかたちでメッセージを創造する力を含む能力と定義した。更にAgar(1994)はコミュニケーション活動における言語と文化の密接な関係をLinguaculture Concept(言語 - 文化概念)と定義してその具体例を示した。本発表においてこれら一連の言語コミュニケーション活動における文化的背景の介在を米国内のユダヤ系及び中国系米国人のコミュニケーション活動の検証より考察をおこなう。更に米国内の他の民族グループには見られないユダヤ系及び中国系米国人の言語コミュニケーション活動における独自性を、双方の比較検討より立証する。

4. 鎖国時代における日本人の海外知識 オーストラリアの場合

森本 峰子 (日本女子大学)

種子島にポルトガル人が漂着する1543年まで、日本人にとっての世界とは、本朝(日本)、唐(中国)、天竺(インド)の三国に過ぎなかった。その後南蛮貿易が行われるにしたがい、日本人の世界観も広がっていった。秀吉にも献上されたオルテリウスの『世界地図帳』(1570)は当時としては最良の物であるが、伝説的な南半球の大陸を未確認のまま載せている。大航海時代の先駆けとも言えるマゼランの航海でも南方大陸は発見できなかったためである。その後多くの探検航海がなされ、ついにキャプテン・クックによりオーストラリア大陸の全貌が明らかになると、西洋では実測に基づいた地図が作られた。しかし、日本では、そのずっと後になっても儒学者により、南極とオーストラリアとニューギニアが一体となり南方大陸をなすオルテリウス型の地図が流布していたのである。西洋事情に詳しい筈の蘭学者とて、形状の異なる地図を発表し、正確な地図作成への道程は長かった。当時の日本の世界地図には、各国の気候や人種などについての記述がしばしば載せられている。本発表では、このような記述を含めた地図を検証するとともに、当時の日本の学者の書いた文献から、オーストラリアについてどのような知識を持っていたのか考える。

5. 日本人学習者における知覚現象(前景・背景)の英語的発想は可能か

亀山 孝 (共愛学園高等学校)

人は、それまでの言語生活の中で培われた独自の解釈方法により、他者が用いた言語表現の意味を限定する傾向にある。これは知覚者の主体的な働きかけにより、同一のもの(言語表現)に対する解釈が人により変わることを意味する。つまり、発信者と受信者との間では認知言語学的立場からしても完全な意味伝達は存在しない可能性があると言える。そこで今回の発表では、日本人英語学習者(高校生)を対象に、ある程度自然な英語的知覚・解釈順の可能性や、さらに学習者の認知言語学的視点の捉え方の相違点を調査し、その結果を報告する。なお調査対象とする「前景・背景」との関係は、英語の「短文構造」と「複文構造」に限定する。そして、認知言語学的解釈を基にして調査結果を分析する。

6. 日本における「外来語」観の変遷 - 接触言語学の視点からの考察

鈴木 俊二 (国際短期大学)

現在、日本語には数多くの外来語(西洋語)が見られる。日本語全体の10%を越え、日本語にとって欠かせない要素になっている。5万語の外来語を収録しているカタカナ外来語辞典も出版されている。明治以降、外来語について専門の外来語研究者、言語学者、英語学者、英文学者、作家、評論家から一般の人たちがさまざまな意見を述べている。これまで「外来語問題」や「外来語論争」に発展した例もいくつかある。外来語の議論は大きく肯定・容認派、否定・拒絶派、そして中間派の三者に分かれる。

本発表では、言語間の接触による影響(借用)を研究する接触言語学の視点から外来語に対する意見を検証し、外来語の捉え方を提示する。

『英米文化』投稿希望者へのご案内

『英米文化』第30号の投稿締め切りは10月31日です。投稿規程は『英米文化』第29号の189頁をご覧ください。新入会員で投稿規程が必要な方は事務局までお申し込み下さい。Eメールまたはファックスにてお送りします。その他投稿に関してのご質問は学術担当の田辺治子理事（Eメール：tanabeh@azabu-u.ac.jp Tel：03-3722-0235 Fax：03-3721-9235）までお寄せ下さい。

事務局からのお知らせ

第101回例会宿泊締切りは10月16日となりました

本年11月20日・21日の第101回例会は小田原アジアセンターにての一泊例会となります。宿泊申込締切りは10月16日とさせていただきます。研究発表は同センター内にて20日午後3時開始となります。会員の宿泊に関しては、事務局の方で40名分を確保してあります（シングル8000円20室 ツインのシングルユース1,200円20室）が、シングルをご希望の方が多いので、早めに電子メール（shakey23@tky.3web.ne.jp）またはファックス（03-5204-8787）にて、シングル、ツイン（相部屋）、ツインのシングルユースの希望事項をいれて事務局までお申込みください（葉書によるお申込みも可）。20日夕方6時からの忘年懇親会ご参加の場合は、さらに5,000円かかる予定です。不時の連絡用に例会場所情報を下記に入れておきますが、**直接の宿泊交渉等は手違いの元**となりますのでご遠慮ください。

アジアセンター小田原 〒250-0045 小田原市城山 4-14-1 電話 0465-22-6131 Fax 0465-22-2466

会員の動き

<新入会員>

HTML版は省略

<住所変更>

HTML版は省略

英米文化学会会報 第40号 編集・発行：英米文化学会編集委員会＝池田 広子、小川 喜正、
岸山 睦、中村 豪、山根 正弘
発行責任者： 中村 豪 〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷2509-12 048-787-4693

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp 学会ホームページ <http://www.threeweb.ad.jp/~shakey23/>